

會 報

THE TRANSACTIONS OF
VOL. IV, NO. 2. THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY AUG. 1949

四國及び九州より新發見の龍蝨7種

附 大分縣産龍蝨科目錄

黒 佐 和 義

(大分縣佐伯市廣小路)

Some additions to the Dytiscid-fauna of Shikoku and Kyushu,
with a list of Dytiscidae from Oita Prefecture

by KAZUYOSHI KUROSA

1. *Hydrotus acuminatus* MOTSCHULSKY コマルケンゲンゴロウ

本種は本州を分布北限とする東洋熱帯系の龍蝨で、四國には當然分布すると考えられるものであるが、未だ記録がないようである。筆者は愛媛縣の松山市(17頭、10-X-1948)と今治市(5頭、13-X-1948)に於いて誘蛾燈から多數の成蝨を採集し、また矢野俊郎氏から同氏が松山市内で採集(3-X-1947)された1頭の標本を頂戴した。本種は松山附近にはかなり豊富に産するものと思われる。

2. *Hyphydrus flavomaculatus* KAMIYA キボンケンゲンゴロウ

本種は本州(東京・京都・大和・兵庫)と五島列島の福江島から知られたかなり珍稀な種であるが、筆者は大分縣南部の本立村(10-X-1947)、川原木村(5-V-1947)、青山村(14-V-1948)及び佐伯市(5-X-1946; 16-X-1946; 21-II-1947; 10-VIII-1947)に於いて多數の成蝨を採集し、また1948年6月22日、愛媛縣の西條市を流れる加茂川の川原で石の下から成蝨の比較的完全な屍體を得た。よつて四國と九州を分布地として追加する。筆者の大分縣に於ける觀察では、本種は *Patambus picipennis* SHARP モンキマメゲンゴロウの好んで棲息する比較的清潔な川の岸邊の石の下や淵の水底に見出される。越冬は成蝨態でなされるようであつて、成蝨は嚴寒期にも

水中の石の下に発見された。

〔記載〕短楕圓形にして光澤あり。頭部は赤黄色にして平滑、觸角は淡黄褐色。前胸背板は黒色にして小點刻を密布し、側縁は細く赤褐色に縁取らる。翅鞘は黒色にして、微小點刻を密布し、翅底部に横位の楕圓形の大なるもの1箇、會合線の略々中央部の兩側に小なるもの1箇、その後側方にやや大なるもの1箇、計3箇の黄色斑紋を装う。腹面は淡黄褐色にして腹部末方はしばしば暗色なり。肢は黄褐色を呈す。♂の觸角 (Fig. 1, a) は♀のそれに比しかなり幅廣し。體長 (♂, ♀) 2.6~2.8mm.

翅鞘の斑紋は個體により多少の變化がある。Fig. 1, b に示すものは筆者の採集せる 32 個體のうちで黄色斑紋の最も強く退縮せるものであるが、もつと數多くの個體を集めれば、翅底部の斑紋のみを残し、他の2紋の完全に消失する個體も見出されるであろう。

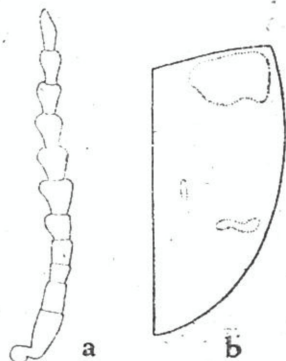


Fig. 1.
Hyphydrus flavomaculatus.
a. ♂の觸角
b. 翅鞘の黄色斑紋

3. *Coelambus vittatus* SHARP シマケンゲンゴロウ

この種は從來本州 (SHARP ; Trans. Ent. Soc. Lond., p. 441, 1884) と北海道 (TAKIZAWA ; Ins. Mats., Ⅷ, 4, p. 172, 1933) から知られた珍稀な種であるが、筆者は 1947 年 11 月 23 日、大分縣佐伯市の佐伯小學校々庭のプールに於いて 3 頭の新鮮軟弱な成蟲を得た。

〔記載〕體は長楕圓形、背面は淡黄褐色にして、やや隆起し、強き光澤あり。頭部は滑澤にして、微細なる點刻を裝い、頭頂に凹字形の暗褐色紋を具う、額の兩側に輕き陷凹部あり。觸角は淡黄褐色なるも、後半部の各節は基端を除き暗褐色を呈す。前胸背板は後邊の中央に暗褐色紋を裝い、正中に甚だ短き縦溝を具え、全面に小點刻を有するも前後兩縁にそうものは少しく粗大なり。翅鞘は各 4 條の暗色縦條と 2 條の明瞭なる點刻縦列を具え、また後半部の側縁にそい 1 暗色縦條あり、會合線も黒褐色、全面に黒色のやや大なる點刻を裝う。體下面は滑澤にして、頭部、前胸部、翅鞘側片及び肢は淡黄褐色、その他は赤褐色を呈す。體長 4.4~4.6mm.

4. *Cope'atus subfasciatus* ZIMMERMANN クロセスジゲンゴロウ

本種は伊豆諸島・琉球・臺灣・紅頭嶼等から知られたものであるが、筆者は大分縣の佐伯市に於いて 1947 年 8 月 17 日に灌漑用の用水池から 13 頭の成蟲を採集し、更に 1948 年 7 月 24 日にも誘蛾燈に飛來した 3 頭の成蟲を得ることが出来た。よつて九州を分布地として追加する。本種は今後調査がすすめば、本州と四國の暖地にも発見

されるものと豫想される。尙、筆者は宇野正芳氏が臺北にて採集されたこの種の標本を検したことがある。

〔記載〕體は長楕圓形、背面はやや隆起し、微細なる點刻を裝い、少しく光澤あり。頭部は黒褐色、額と頭楯は赤褐色、觸角と兩鬚は褐黃色。前胸背板は黒褐色にして兩側は黃褐色、正中に微細なる縱溝を具え、前縁にそいて粗點刻を裝い、後側角附近に搔痕あり。翅鞘は黑色、基邊は多少とも淡色、側縁は黃褐色、各翅鞘に6條の強き縱溝あり (Fig. 2, a), 亞緣溝は比較的長く、側縁の前方 1/3 の附近より起り、第5縱條の末端近くに至り消失す。頭部と前胸部の下面は褐黃色、中・後胸と腹部の下面は暗赤褐色、肢は褐黃色を呈す。體長5.0~5.2mm.

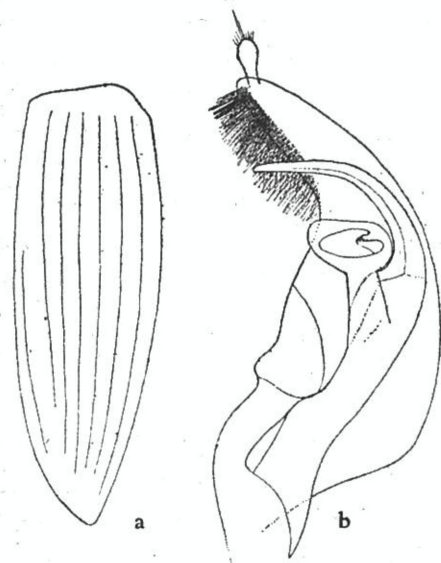


Fig. 2. *Copelatus subfasciatus*.

- a. 左翅鞘の縱溝
- b. ♂のaedeagus (左のlateral lobeを除きたる左側面觀)

♂の aedeagus は Fig. 2, b に示す通りで、lateral lobe は幅廣くて、末方 1/3 の下邊に長い軟毛を密生し、末端に匙形の附屬物を具えており、median lobe は細くて長いが、*Cope'atus teran shii* KAMIYA のそれよりははるかに短く、かつより弱く彎曲しており、その中央部から甚だ特異な形狀の附屬突起を生ずる。

5. *Platambus pictipennis* SHARP モンキマメゲンゴロウ

本種は四國から未だ記録がないが、筆者は愛媛縣の宇和島市 (來村川, 2頭, 30-V-1946), 今治市 (蒼社川, 9頭, 23-II-1948) 及び松山市 (石手川, 16頭, 24-II-1948) に於いて多數の成蟲を採集し、また1946年5月31日、宇和島市の來村川に於いて捕獲した *Rana rugosa* SCHLEGEL ツチガエル の胃から1頭の成蟲を見出すことが出来た。従つて本種の分布は「樺太、日本(北海道・本州・四國・九州・對馬)、朝鮮」となる。

6. *Agabus browni* KAMIYA チャイロマメゲンゴロウ

先年筆者 (昆蟲世界, 48卷5月號, 9頁, 1944) は九州と滿洲から知られていたこの龍蝨が本州にも分布することを報告したが、今回さらに四國を分布地として追加

22.※ *Hydaticus grammicus* GERMER コシマゲンゴロウ

採集地：北海道郡大在村 (Ⅹ)，佐伯市 (Ⅳ, Ⅶ～Ⅹ)，同木立村 (Ⅷ)，同下堅田村 (Ⅴ, Ⅷ)，同青山村 (Ⅴ)。

23.※ *Hydaticus fabricii* MAC LEAY ウスイロシマゲンゴロウ

採集地：北海道郡大在村 (Ⅹ)，佐伯市 (Ⅴ～Ⅺ)，南海部郡下堅田村 (Ⅴ, Ⅷ)，同木立村 (Ⅷ)。

24.※ *Graphoderes adamsi* CLARK マルカタゲンゴロウ

採集地：佐伯市 (Ⅷ)。

25.※ *Cybister japonicus* SHARP ゲンゴロウ

採集地：佐伯市 (Ⅱ, Ⅲ, Ⅶ～Ⅹ, Ⅺ)，南海部郡下堅田村 (Ⅱ, Ⅲ, Ⅺ)。

26.※ *Cybister tripunctatus orientalis* GSCHWENDTNER コカタノゲンゴロウ

採集地：別府市 (Ⅹ)，北海道郡大在村 (Ⅶ)，佐伯市 (Ⅴ, Ⅶ～Ⅺ)，南海部郡下堅田村 (Ⅰ～Ⅴ, Ⅶ, Ⅹ, Ⅺ)，同木立村 (Ⅷ)。

拙筆するに當り文献の渉獵に關して多大の援助を與えられた阪口浩平氏並びに貴重な標本の御惠與を賜わつた矢野俊郎、安藤裕兩氏に厚く御禮申し上げます。

本 州 未 記 録 の 天 牛 二 種

武 井 武 一

1. *Pronocera brevicollis* ab. *daurica* MOTSCHULSKY クビアカヒラタカミキリ

本種は水戸野氏天牛科目録によれば朝鮮・樺太に産する種なるが私は昭和22年7月某日自宅軒端の水槽中に落ちて死に浮び居るものを採集した。前胸背濃赤褐色翅鞘は青藍色にて美麗の種なり。

2. *Judolia longipes* GEBLER カラジニハナカミキリ

本種も前記目録によれば朝鮮・樺太に産する種なるが私は昭和20年8月6日利根郡中央部に在る武尊山(ホタケヤマ)麓1000米位の溪流附近の花上に得たり。

以上の二種は關公一氏の同定を経たれば種名に誤無きを信ず。但し1には多少の疑ある由、茲に關氏に同定の勞を深謝す。

Chlaenius costiger CHAUDOIR var. *bhamoensis* BATES

スジアラゴミムシ變種の新産地

小 田 覺 造

原種は普通に産するが、本變種は極めて稀少なもので先に大和葛城山(Ⅲ—26, 1936, 荒木等氏採集)の記録があるにすぎないが、私は大阪府枚方町淀川原(Ⅳ—8, 1947)で1頭を採集し得たので報告しておく。尙他には現在阪口浩平氏所藏の矢野由雄氏蒐集標本中に群馬縣沼田産の1頭を検してゐるにとどまる様である。